

【AI 検定】 AI 活用アドバイザー 認定試験

この認定試験は難解なAIのプログラムを学ぶ試験ではありません。
AIの基本と、利用動向を学び、AIをゼロから作る必要があるのか、
あるいは既に提供されているAIシステムを使っていく方法があるのかについて、現代人に必須となった「AI活用術」を学ぶ試験です。

**AIと360°全周Webカメラを利用した
「オンライン・ライブ受験」を実施中**

試験日程

2023年 **8月27日(日)**

申込期間

4月18日(火) ▶ 7月20日(木)

※会場によっては期日前に申込受付を締切ることがございます。
※公開会場、オンライン・ライブ受験とも同日締切

実施概要

試験時間 ▶ 10:00～11:45

検定料 ▶ 11,000円(税込)

※試験を10名以上同時に申し込まれますと割引価格がご利用いただけます。
31名以上同時にお申し込みをされる場合は、当協会までお電話ください。

問題形式 ▶ マークシート方式(2択・4択)

試験会場

東京… 東京大学(駒場Iキャンパス)など
全国11会場にて開催

※会場の詳細はホームページをご確認ください。
※会場は変更となる場合がございます。

● オンライン・ライブ受験も同時実施

オンライン・ライブ受験では、360°全周 Web カメラとパソコンが必要となります。通常パソコンのインカメラや360°全周 Web カメラ以外の Web カメラでは失格となります。

オンライン・ライブ受験システムを稼働し、Web カメラにより受験時の画像を協会サーバーに20から30秒に1回送信する”AI”監督システムで受験して頂きます。

試験中離席した場合や、試験システムの操作以外の作業を行った場合は失格となります。

※オンライン・ライブ受験をする方への Web カメラのレンタルを行っています。

 貸し出し価格 1,540円 → 1,040円(送料含)
協会ホームページよりお申込み可能です

学習テキスト 無料キャンペーン

—こんな時代だから資格を取ろう—

**AI 活用アドバイザー認定試験
学習テキスト**

【判型 / ページ数】A5判 / 356 ページ

【発送予定】申込後5営業日以内

詳しくは ▶ <https://www.joho-gakushu.or.jp/ai-advisor/>

今回試験限定
お申込み頂いた方
もれなく全員に

無料プレゼント



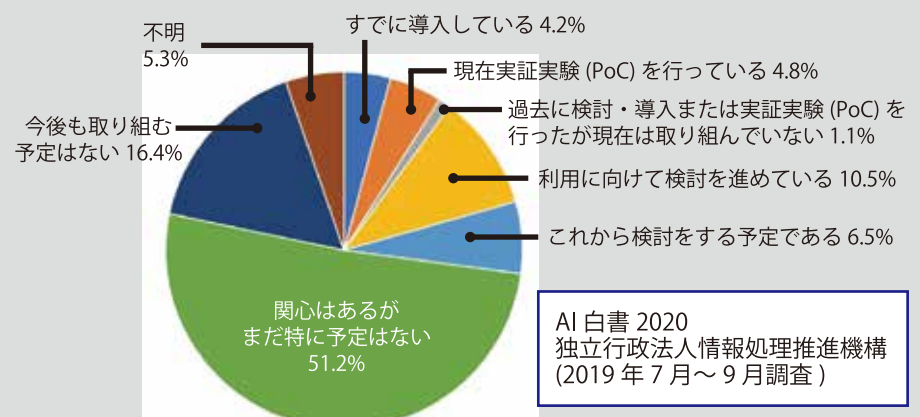
AI 導入企業と無関心企業

AI(人工知能)が様々な分野で社会を一変させつつあります。産業の分野では生産性や効率性が飛躍的に向上し、コスト削減が可能となり、健康や医療の分野では新たな発見や発明が相次ぎ、AIは芸能や芸術、娯楽の分野にまで影響が及んでいます。

しかしながら、AI白書(2020)によれば、日本の主要な事業者525社にアンケート調査を行った結果、AIを既に導入している企業は4.2%、現在実証実験(PoC)を行っている企業は4.8%で、合計10%未満でした。また現在、利用に向けて検討を進めている企業と検討を予定している企業も併せて17%しか無かったのです。

一方で、関心はあるがまだ特にAI導入の予定がない企業が51.2%、今後とも取り組む予定はないと答えた企業が16.4%で併せて約70%近い企業がAI化に向けた行動をしていなかったのです。第3次AIブームと言われながら、この低い導入率が示す原因は何でしょうか。その第1の理由は、AIに対する理解不足、次は、膨大な費用と人材不足だと思われます。

企業におけるAIの利用率



※本調査は2019年7月～9月であり現時点での数値とは差異があることを考慮して下さい。

しかしながら現在では、GoogleやAmazon、Azure Cognitive ServicesやWatson APIといった構築済みAIサービスの提供も多く、スクラッチで(最初から)構築するのではなく、既に作られたAIを利用することで、安価で、また特別なAI人材がいなくても、活用することができるのです。

お申込みは協会ホームページから ▶

<https://www.joho-gakushu.or.jp/ai-advisor/>

全情協

検索

■試験に関するお問合せ

03-5276-0030



一般財団法人

全日本情報学習振興協会

東京都千代田区神田三崎町3-7-12 清話会ビル5F
TEL:03-5276-0030 FAX:03-5276-0551
E-Mail:joho@joho-gakushu.or.jp

AI の活用と事例

AI（人工知能）には身近なところでも活躍しているものがあります。例として、「顔認証システム」「音声認識システム」「自動車の自動運転機能」「お掃除ロボット」などが挙げられます。

現在、AI は様々なところで活用されてきていますが、企業として導入しているところはまだ少ない状況です。本検定試験を受験することで AI の活用事例を学び、AI 人材を目指しましょう。

出題内容	
第 1 課題 AI の基礎知識・用語	1 AI 基礎知識 2 AI 基礎用語
第 2 課題 AI の技術	1 ディープラーニング 2 知的活動を実現する技術
第 3 課題 企業・団体の AI 導入事例	1 製造業 2 自動車 3 農林・水産 4 健康・医療・介護 5 金融 6 物流 7 流通 8 教育・人材 9 エンターテインメント 10 スポーツ 11 スマートライフ 12 エネルギー 13 防犯・防災 14 インフラ 15 行政 16 その他
第 4 課題 人材・AI の導入動向	1 企業の AI 人材 2 企業の導入傾向
第 5 課題 AI の制度・政策動向	1 AI に関するガイドライン・制度 2 政策動向等
出題形式	2 択・4 択問題（マークシート方式）
問 題 数	課題 1 ～ 2 30 問 課題 3 50 問 課題 4 ～ 5 20 問 計 100 問
合格基準	70% 以上の正答で合格

※出題内容、問題数は予告なく変更される場合があります。

※問題の難易度により調整し、正答 70%未満でも合格とする場合があります。

サンプル問題に挑戦

【問】AI に関する記述として、より適切なものを以下のア・イのうち 1 つ選びなさい。

ア. 現在は、「第 2 次 AI ブーム」といわれている。

イ. AI は、「汎用人工知能」と「特化型人工知能」に大別することができる。

【解説】

現在は第 3 次 AI ブームとされている。第 1 次 AI ブームは 1960 年前後、第 2 次 AI ブームは 1980 年代であったとされ、第 3 次 AI ブームは 2010 年頃から現在まで続いているとされている。

※第 1 ～ 3 次 AI ブームの始まり、終わりの年代には諸説があります。

【解答】イ

受験資料

【参考書籍】

【A I 白書】

AI 白書 2017、同 2019、同 2020、同 2022 では、AI 関連全般の調査を基にして詳細な AI への取り組みが記述されています。

本 AI 活用アドバイザー認定試験は、各種の公開情報から出題されますが、AI 白書 2020 及び 2022 からも出題いたします。本書は専門的な内容も多く、様々な業界における AI の取り組みを知ることができますので、本格的に学習されたい方にはお勧めいたしますが、試験対策としては当協会の学習テキストでも差し支えありません。



AI 活用アドバイザー認定試験
学習テキスト
[発行所] 全日本情報学習振興協会
[価格] 非売品
[判型] A5 判
[ページ数] 356 ページ



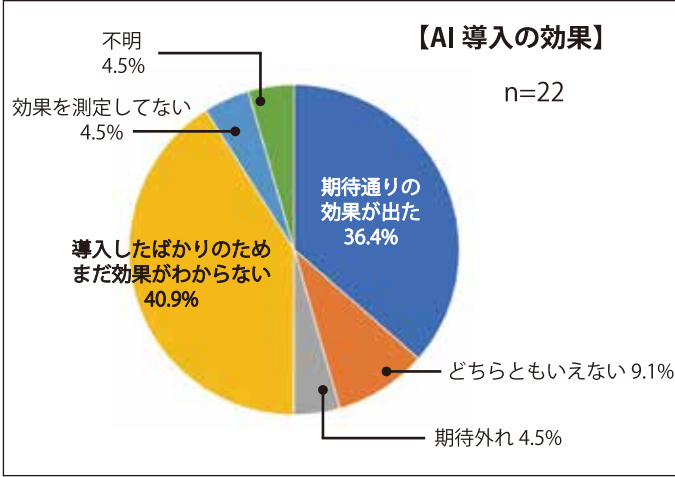
AI 白書 2022
[編] AI 白書編集委員会
[発行所] 角川アスキー総合研究所
[価格] 4,840 円（税込）
[判型] A4 判
[ページ数] 496 ページ

A I 導入の効果

調査アンケートにおいて、AI 導入各社の導入効果はどうだったのでしょうか。アンケート調査では、AI を導入した企業のサンプルが 22 社と少なく、この結果からすべてを判断するのは早計かもしれませんが、その方向は推測できます。

即ち、期待通りの効果が出た企業が 8 社で 36.4%、期待外れが 1 社、どちらとも言えないが 2 社となっています。この結果から推察すると、今後、多くの企業が AI を導入していく場合の、その効果については、「効果が出る可能性が高い」と判断しても差し支えないと考えられます。

【AI 導入の効果】
n=22



AI 白書 2020 独立行政法人情報処理推進機構
(2019 年 7 月～9 月調査) より作成

オンライン・ライブ受験（IBT 試験）について

当協会の検定試験は自宅や会社で受験が可能な「オンライン・ライブ受験（IBT 試験）」に対応しております。会場に直接来ていただく必要は一切ないため、感染症対策を気にする必要もございません。

【ご用意いただくもの】

・パソコン（ノート・デスクトップどちらでも可）

・3 6 0°全周 Web カメラ ※協会からレンタルをしております。
(3 6 0 度 全周 Web カメラ以外の使用は受験不可となります。)

【オンライン・ライブ検定の詳細はこちら】

https://www.joho-gakushu.or.jp/online_exams/



【問】水産業における AI の活用事例に関する次の文章中の（ ）に入る語句の組合せとして最も適切なものを、以下のアからエまでのうち 1 つ選びなさい。

AI を利用した技術は、漁業の分野でも活用が進んでいる。株式会社電通は、（ a ）の（ b ）から魚体の品質を判定する AI を開発した。日本の市場における熟練の職人は、長い修業を経てこの（b）による目利きをマスターし、（a）の買い付けを行っている。電通の開発した AI は、5,000 点を超える大量の（b）画像と、（ c ）をもとに、目利きの技術を継承している。

ア. a. サーモン b. ヒレの形状 c. 職人の品質判定データ

イ. a. サーモン b. 尾の断面 c. 漁獲海域の気象データ

ウ. a. マグロ b. 尾の断面 c. 職人の品質判定データ

エ. a. マグロ b. ヒレの形状 c. 漁獲海域の気象データ

【解答】ウ